

	職種間連携の実践的展開	
--	-------------	--

担当講師名

沖縄県介護福祉士会

理事 桑江 貴英

研修領域	実施期日	会 場
連携領域	令和 8 年 2 月 28 日（土）	沖縄県総合福祉センター西棟 3 階第 1 会議室

到達目標

介護職としての役割・視点に基づき、他職種と連携しチームケアを実践できる。

- ①チーム（他職種を含む）ケアにおける課題・目標の共有化及び的確な情報の授受が行えるようにする。
- ②チームケアにおける介護職の役割と状況に応じてとるべき行動を理解させる。

修了時の評価ポイント

- ①看護職等の他職種の役割や業務内容、チームケアにおいて介護職に期待される役割・行動について、具体例に基づき説明できる。
- ②申し送り、急変、事故、家族への連絡などの場面を想定した事例に基づき、チーム（他職種を含む）ケアにおいて、何を観察、報告、連絡、相談すべきかについて、具体的に説明できる。

テキスト・使用教材等

- ・事前課題ワークシート
- ・当日配布資料、ワークシート
- ・「チームへの指示書」ワーク
- ・テキスト「介護福祉士がすすめる多職種連携」中央法規

<参考図書>

野中猛「多職種連携の技術(アート)—地域生活支援のための理論と実践」2014 中央法規

京極 真「信念対立説明アプローチ入門—チーム医療・多職種連携の可能性をひらく」2012 中央法規

自職場等課題

【事前課題のねらい】

自分自身が、日々の業務上で実際に体験した他職種との連携場面を振り返り、連携の困難性や課題をグループで共有化しそこでの取るべき行動について議論することで、職種間連携の展開に必要な実践的なポイントの理解を深める。

【事前課題の内容】

「連携や協働を行う実際の場面でむずかしさや課題を感じた具体的なエピソード」をひとつあげて別紙ワークシートに記述する。

自己の実践現場で業務上かかわりのある他の職種や機関（事業所内・外）との具体的な連携や協働場面において「連携がうまくできなかった」、「ぎくしゃくしていて課題があった」など「連携や協働を行う実際の場面でむずかしさや課題を感じた具体的なエピソード」をあげて記述する。

【事後課題のねらい】

介護福祉の専門性としての理念価値を基盤としてその役割・視点に基づき、介護福祉の理念価値と異なる他職種と連携しチームケアを実践できるようにする。

【事後課題の内容】

講義・演習の内容を踏まえ以下①と②の課題に取り組む。日常的な支援や業務の場面において、実際に取り組んだ内容をそれぞれ 1,000 文字程度でまとめる。

- ①チーム（他職種を含む）ケアにおける課題・目標の共有化及び的確な情報の授受が行える（サービス担当者会議・ケアカンファレンス等）。
- ②チームケアにおける介護職の役割と状況に応じた行動がとれる（食事支援における看護師との連携場面等）。